

障害者雇用に関する実態・意識調査及び卒業後追跡アンケートの結果について

1 はじめに

昨年度の卒業後追跡アンケートを通して、在学中のキャリア教育と卒業後のアフターケアを連動して生徒及び卒業生の“働くために必要な力”を高めることを課題として挙げ、特に、①コミュニケーション能力の向上、②基本的な生活習慣及び基本的な労働習慣の確立、③主体的に進路を選択し決定できる力の育成の3点についてはキャリア教育の中でも、本人が意識を高くもって努力する必要性があると再確認できた。

そこで、3年間のアフターケア及び同窓会活動等により卒業生をサポートしながら、実態に応じて職場及び支援機関と連携し、卒業生の成功事例や課題等を在校生に還元できるように、職員間で情報を共有するとともに卒業生の就労先（企業就労）へのヒアリング調査を行い、指導計画の見直しを行うこととした。また、昨年度同様、卒業生の追跡調査を行い、得られた結果を分析し、キャリア教育の充実を図ることとした。

2 障害者雇用に関する実態・意識調査

(1) 目的

卒業生の職場定着に向けて、職場における卒業生の実態や障害者雇用の課題等を把握することによって、今後の本校のキャリア教育の充実を図る。

(2) 方法

ア 調査対象

平成26・27年度卒業生の就労先担当者

イ 調査時期

平成28年6月

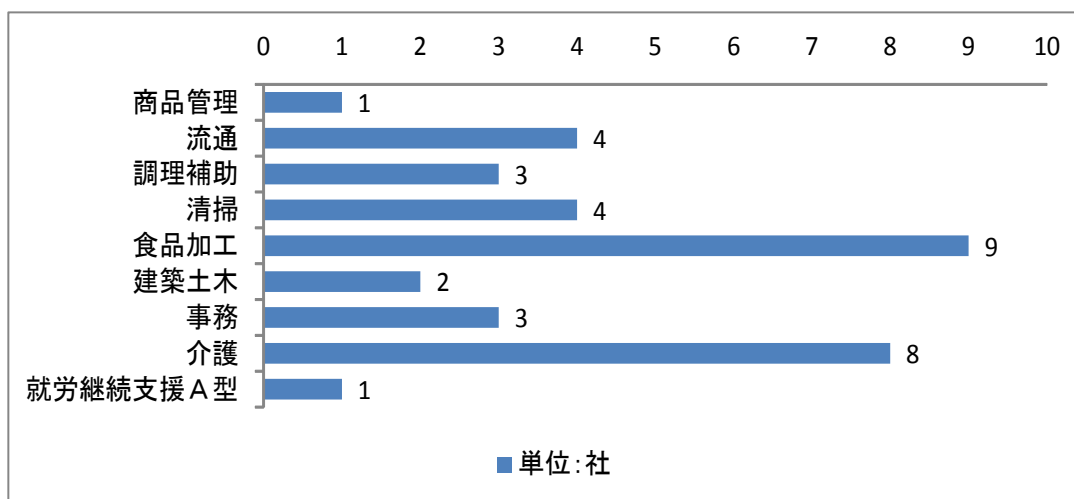
ウ 調査方法

ヒアリング調査用紙を作成し、アフターケアによる就労先訪問の際に聞き取りを行う。

エ 協力事業所数

35社

図1 協力事業所の業種



(3) 結果

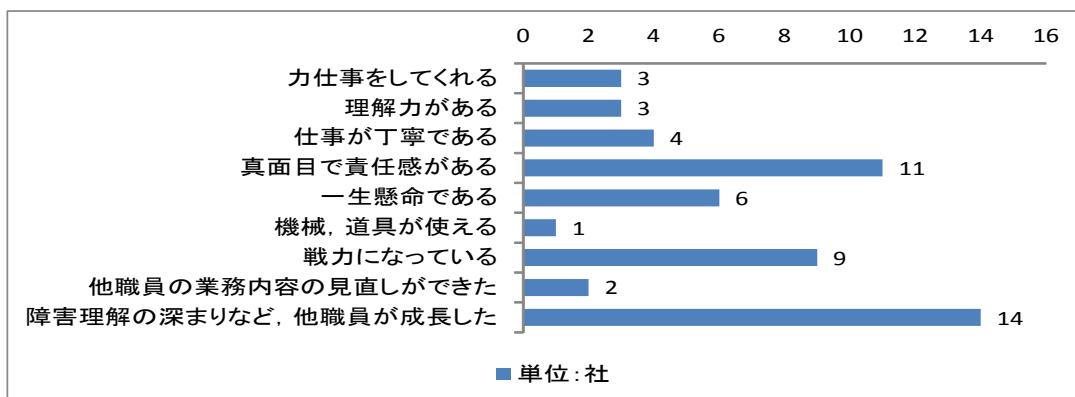
ア 雇用してよかったと感じることについて

本校卒業生を雇用してよかったと感じることを聞いたところ、図2のとおり、「障害理解の深まりなど、他職員が成長した」が最も多い回答となった。特に、高齢者施設からの回答に多く、「職員の意識改革につながった。」「自分たちの教え方、伝え方を見直すきっかけになった。」など、雇用したことをメリットとして感じていることに感謝したい。

次に多かったのが、「真面目で責任感がある」で、あらゆる職種の事業所で感じていただいた。このことに関しては、卒業生の勤務態度を評価していただいたことの喜びを、是非とも卒業生及び在校生に伝えたい。

また、今回得られた、企業側のメリットととらえていただいていることを、学校からの発信として今後の進路開拓に生かしていきたい。

図2 雇用してよかったと感じること



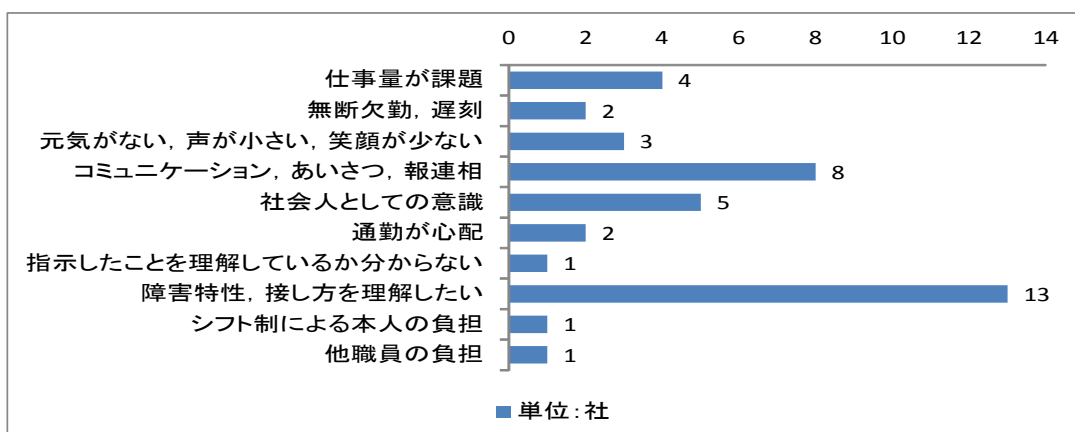
イ 雇用して困ったことについて

本校卒業生を雇用して困ったことを聞いたところ、図3のとおり、「障害特性、接し方を理解したい」が最も多く、ほとんどの職種の事業所からの回答だった。例えば、「突発的な言動が見られる」、「休憩時間はトイレにこもってしまう」など、在学中と同じ行動があり、対応に苦慮されていることが分かる。しかし、事業所の方が長い目で見てくださり、支援機関との連携及び本校のアフターケアにより、少しずつ成長していることを評価していただいている。

これを受けて、移行支援会議を充実させ、予想される行動への対応策を伝えるとともに、困ったときには、すぐに連携がとれる体制づくりを工夫していきたい。

また、「コミュニケーション、あいさつ、報連相」についての回答が次に多かった。「自分から話をしてほしい。」「スタッフやお客様に対してのあいさつを相手に聞こえるようにしてほしい。」など、現場の声を在学中の学習において、より具体的にコミュニケーションについて考えさせる材料として参考にしたい。

図3 雇用して困ったこと

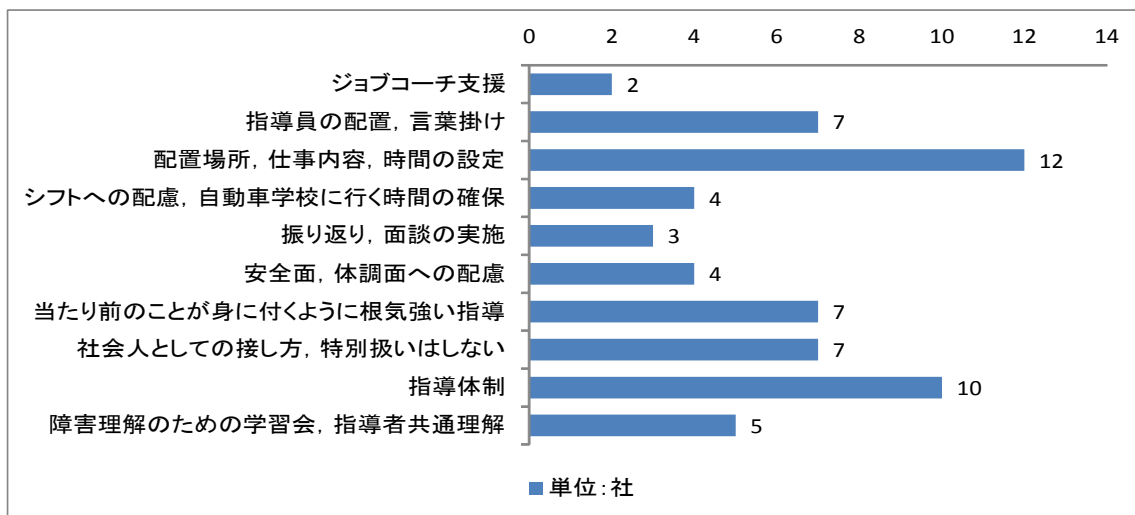


ウ 雇用する上で配慮したことや取り組んだことについて

本校卒業生を雇用する上で配慮したことや取り組んだことを聞いたところ、図4のとおり、「配置場所、仕事内容、時間の設定」及び「指導体制」について挙げた事業所が多かった。具体的には、流通関係の事業所では、「担当するエリアを決めたり、一つの箱に掛ける時間を制限する」、事務関係の事業所では、「マニュアルを紙面で準備して、口頭での説明を加えている」など、働きやすい環境をつくってくださっていることが分かる。

このことについても、アと同様に、学校からの発信として今後の進路開拓に生かしていきたい。

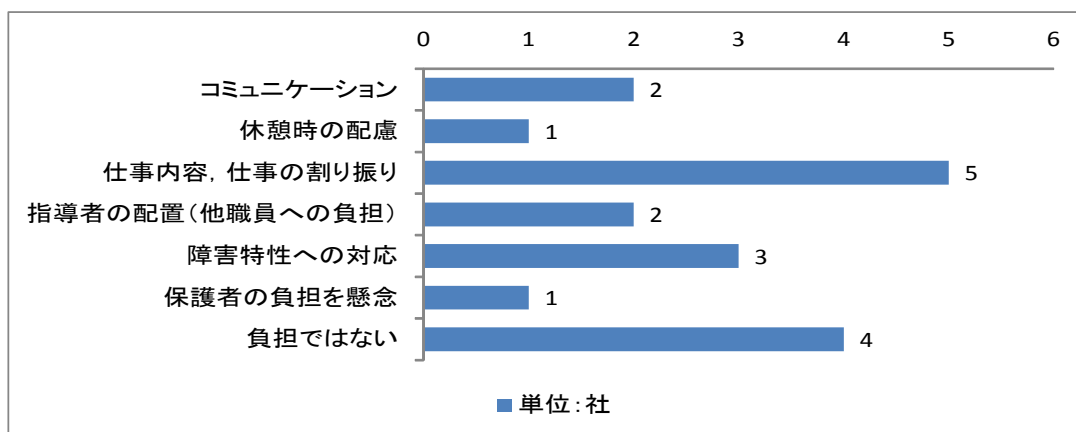
図4 雇用する上で配慮したことや取り組んだこと



エ 雇用して負担に感じたことについて

本校卒業生を雇用して負担に感じたことを聞いたところ、図5のとおり、それぞれ少数の回答であったが、「仕事内容」や「指導者の配置」など、苦慮していることがうかがえる。このことに関しては、事業所及び支援機関と成功事例を共有し、問題点を解決できることを期待したい。

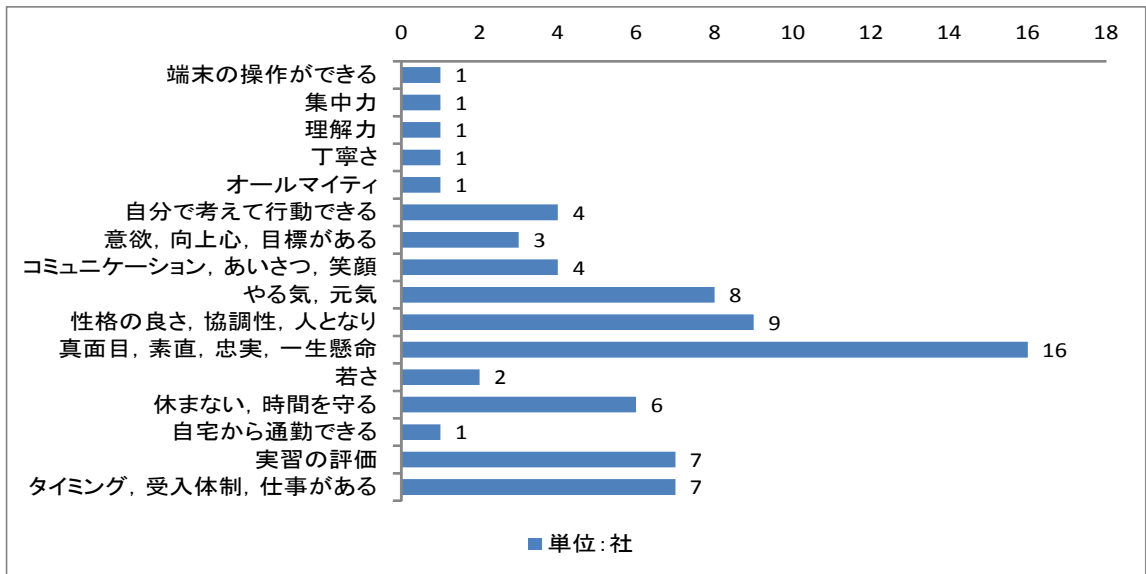
図5 雇用して負担に感じたこと



オ 採用のポイントについて

本校卒業生の採用に当たって決め手となったポイントについて聞いたところ、図6のとおり、「真面目、素直、忠実、一生懸命」が最も多く、特に、「真面目さ」と「素直さ」を評価していただいた卒業生が多かった。また、「やる気」、「元気」、「性格の良さ」なども高い数値になっている。つまり、採用に当たって重視していることは、仕事に対する意欲と人に接する態度であることがうかがえる。これらのことを、校風として、職員及び生徒が共通認識して、学習活動に当たるようにする。

図6 採用のポイント



3 卒業後追跡アンケート

(1) 目的

卒業後、半年経った卒業生が、仕事に対する満足度及び社会生活をどのように捉えているかを把握することによって、今後の本校キャリア教育の充実を図る。

(2) 方法

ア 調査対象

平成27年度卒業生32人及び保護者

イ 調査時期

平成28年11月～12月

ウ 配付及び調査方法

- (ア) アンケート用紙を作成し、アフターケアで就労先を訪問する際に本人に配付する。ただし、就労先を訪問しない卒業生については、郵送する。
- (イ) 卒業生及び保護者は、それぞれアンケート用紙に回答を記入し、同封した返信用封筒にて、本校同窓会・アフターケア係まで返信する。

エ 回収率

62.5% (20人/32人)

オ 回答者の属性

在学時作業班

OA 実務班	福祉班	接客・ 接遇班	清掃班	流通班	農業・ 園芸班	食品 加工班	木材 加工班	計
3人	2人	2人	3人	2人	2人	3人	3人	20人

現在の就業形態

正社員	契約社員	準社員	パート	福祉サービス利用	計
5人	3人	1人	9人	2人	20人

職種

商品管理	製造	調理	介護	清掃	事務	クリーニング [※]	左官	計
2人	7人	1人	4人	1人	2人	2人	1人	20人

(3) 結果

ア 現在の職場での満足度について

現在仕事をしている卒業生の職場での満足度は、表1のとおりである。表から、「仕事を丁寧に教えてもらえる」ことに満足している卒業生が多い反面、不満足と答えた卒業生と無回答の卒業生もいることから、卒業生にとって、職場の方の存在は大きく、支えられていると感じたり、厳しさを味わったりしていることがうかがえる。

表1 現在の職場での満足度

質問項目	満足	普通	不満足
能力を発揮できる	9人	11人	0人
責任ある仕事ができる	6人	14人	0人
仕事内容	10人	10人	0人
給料	10人	7人	2人
勤務時間	11人	9人	0人
人間関係	5人	14人	0人
仕事を丁寧に教えてくれる	13人	4人	2人

イ 仕事選びのポイントについて

(ア) 卒業生

卒業時の仕事選びのポイントを図7に、社会人になってから重要視しているポイントを図8に示した。卒業時は「やりたい仕事」を重要視していたが、社会人になってからは、「自分の能力を生かせる仕事」、「人間関係」と答えた卒業生が「やりたい仕事」を上回った。これにより、社会人になったことで職業生活の現実を知り、社会貢献できることの喜びを味わうとともに人間関係の大切さを実感したと考察する。

図7 卒業時の仕事選びのポイント（複数回答）

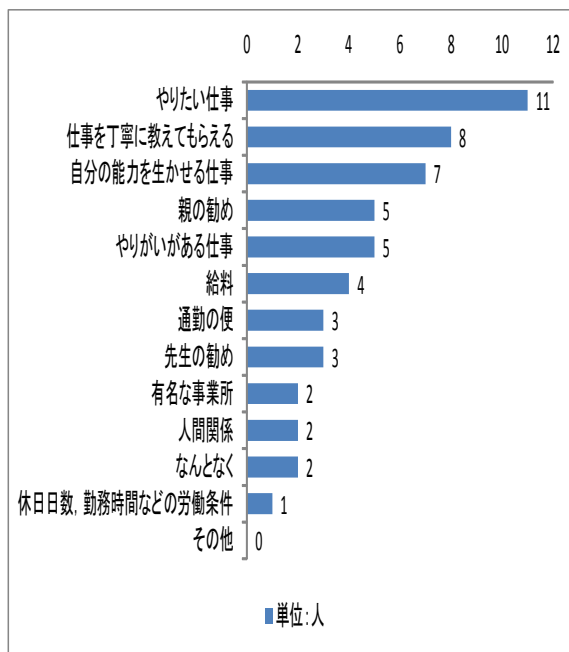
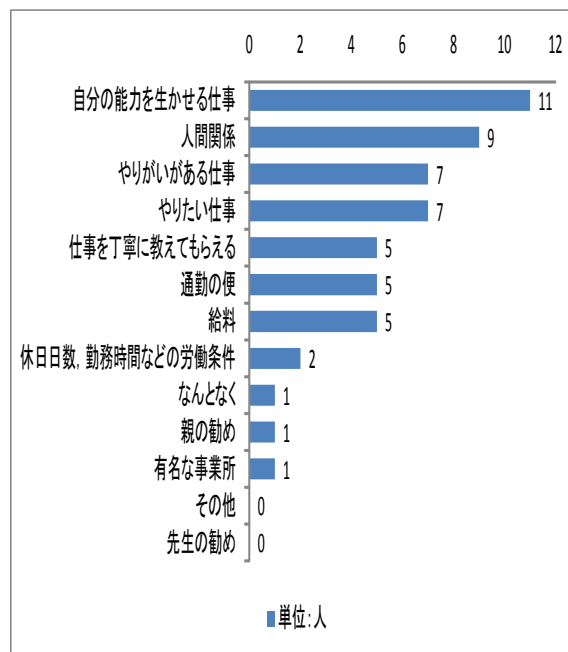


図8 現在重要視しているポイント（複数回答）



(イ) 保護者

保護者にも同様の質問をした結果を図9, 10に示した。卒業時, 現在ともに, 「本人の能力を生かせる仕事」を重要視しているが, 「人間関係」については, 現在重要視している保護者が増えている。これは, 周りの方への感謝やあらゆるタイプの方と接することで我が子が成長していく喜びの表れだと感じる。

図9 卒業時の仕事選びのポイント (複数回答)

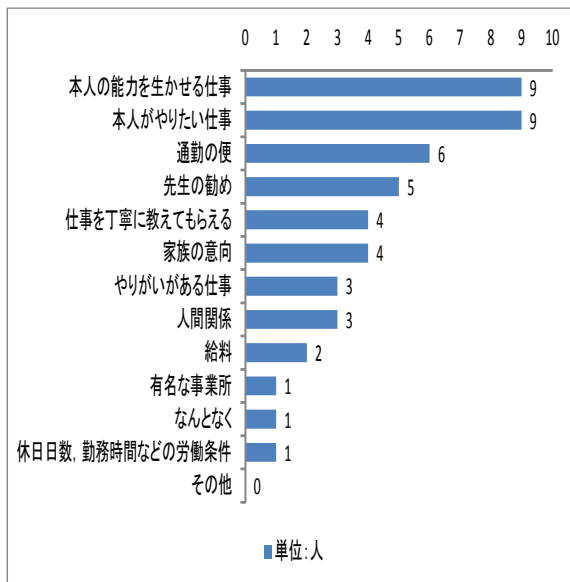
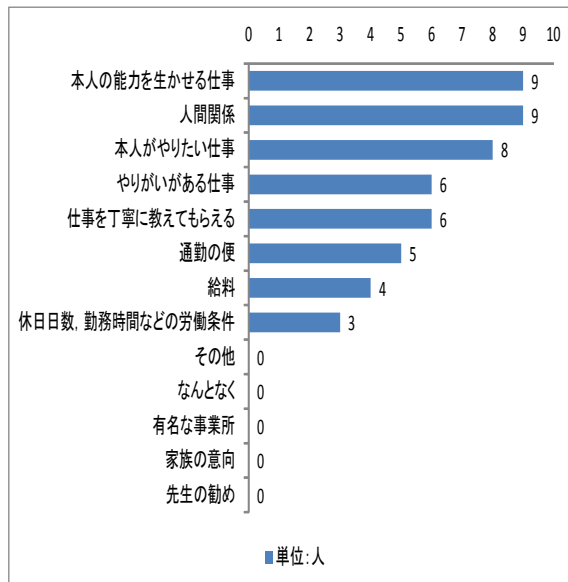


図10 現在重要視しているポイント (複数回答)



ウ 社会人になって, 学生とのギャップを感じたこと等について

社会人と学生とのギャップについて聞いたところ, 表2のとおり, 卒業生は仕事をして給料をもらうことにより, 責任をもって行動していると言える。また, 自由な時間が少ないことを感じながら, 社会人としての自覚をもって生活しているとも言える。

そして, 保護者には「学生との違い」についてアンケートで回答していただいた。表3のとおり, 「責任が出てきた。」「自覚が出てきた。」「成長した。」「話をするようになった。」など, 喜びの回答が多かった。

表2 社会人になって, 学生とのギャップを感じたこと

分類	記述内容
仕事	責任をもって, 最後まで, 仕事に取り組む。
	高校時代は, 勉強ですんだけど, 社会人になると, 勉強だけではすまないと感じた。
	給料がもらえたこと。
	勉強と仕事は違う。
	社会人になって, 学生の実習等と違い厳しさや難しさがある。
	立って仕事をしていて, きつくても, 集中して取り組まないといけないところ。
人間関係	言うてはいけないこと (相手が悲しむこと) を言うて注意されたこと。
生活	学生時代とはちがいで, 働いたお金を自分で使うことができると感じた。
	朝が早い。学校とは違って土日仕事だから疲れる。
	自由の時間が少ない。
	学生のときは, 先生や相談できる友達が近くにいて相談はできたが, 社会人になると近くに先生や友達がいないことだと思う。
	夏休み冬休みがない。

表3 保護者が感じる学生との違い

分類	記述内容
仕事	仕事をする事、責任をもつことを、何より分かったのではないと思う。
	働いたらお金をもらえるということが分かったようだ。それによって、楽しみになるようになった。
	少し、自覚できるようになった。
	自分で働き、賃金、給料をいただけることに、やりがいを感じているようだ。目的、目標（貯めたお金で何かを買うなど）があるので、働きがいがあるようだ。
	土日祝も仕事だが、仕事にも慣れてきて、仕事への責任が出てきたかもしれない。
	机に座って勉強することが少なくなったが、体を動かして働くことの方が楽しそうだ。
	社会に出て、お給料をもらって仕事をしているのだという自覚が出てきたと思う。
	以前よりは落ち着いてきていませんか？
	自分自身で考えて行動するようになった。
	仕事が少し早くなってきた。
人間関係	仕事柄、人間関係が重視されると思うので、自分の発する態度や言葉遣いに常に心掛けられるようになったのではないと思う。
	自分の意見を他人にしっかり伝えることができるようになった。おかげさまで、職場の忘年会で、「成長したで賞」をいただくことができた。社内新聞にも取り上げて記事にしてもらえた。
	マナーが身に付いてきたと思う。
生活	学生の頃より、日々何かあったときなど、話をしてくれるようになり、アドバイスができる（人間関係など）。ずいぶん成長したと思う（責任感など）。
	まず朝食を学校に行くときは摂らなかったけど、社会人になってからは毎日食べていくようになった。そして、朝、親が起こさなくても自分で起きるようになった。やはり少し、自覚が出てきたように思う。学校時代とは違って、少しいろんな面で成長したように思う。
	健康管理…かな…。学生のときと違い、「頭が痛いから」、「お腹が痛いから」くらいで休めないの、自分で管理できるようになった。
	休日出勤があることで社会で働いているのだとの認識が出てきたこと。働いて自分の給料を大事に預金してお金のありがたみを感じている。
	休日が、土、日ではなくシフト制の週休2日なので、土、日にあるイベントなどに参加できにくくなった。休みは、希望すれば入れられるので、早めに分かっているときは、休みをもらっている。
	お風呂に声を掛けても入らないことがあったが、仕事の場合は、メリハリができています。
	積極的に家のことを手伝ってくれるようになった。

エ 学生時代にやっておけばよかったと思うことについて

卒業生は「もっと〇〇しておけばよかった。」と感じている。内容を表4のように分類すると、あらゆるスキルを高める必要性と基本的な姿勢の大切さを実感していると考察する。

表4 学生時代にやっておけばよかったと思うこと

分類	記述内容
知 識 技 術 技 能	もう少しパソコンの技術や敬語の使い方を勉強しておけばよかった。
	勉強。
	たくさん資格を取っておけばよかった。
	車の免許。
	本をもっと読めばよかった。
	家の買い物の手伝いをもっとしておけばよかった。
意 識 態 度	コミュニケーション能力をしっかり身に付けておけばよかった。
	あいさつ。
	あいさつの声の大きさ。
	もっと体力づくりをしておけばよかった。
	集中力をもっと付けておく。
自分がやりたい職種じゃなくても、学生時代にやったことは無駄にはならない。	

4 今後の展望

ヒアリング調査により、企業が求めている働く力に関する情報を収集することができた。その中で、企業は、「真面目さ」、「素直さ」を本校の卒業生の良いところと捉えて採用したことが顕著に表れた。「真面目で素直な人」が、休まず勤務することができ、気持ちのよいあいさつをすることができ、職場の人とのコミュニケーションをとることができる。すなわち、真面目で素直であることが、人間関係を豊かにし、職業生活が充実する重要なポイントであるということ、在校生に学んでほしい。また、今回のヒアリング調査で、企業側と直接話すことにより、卒業生のより具体的な課題が明らかになった。その結果を基に、各教科で来年度の年間指導計画及び学習内容を見直すことができた。

また、アンケートを通して、「人間関係」、「健康管理」、「責任感」の重要性を卒業生自身が感じていることから、コミュニケーション能力の向上と基本的な生活習慣及び基本的労働習慣の確立については、本校のキャリア教育において、生徒自身が意識して取り組んでいけるようにする必要があると言える。

今後も、卒業後の職場及び支援機関、家庭との連携と在学中の保護者への情報提供を充実させるとともに在校生に生きた教材として活用できるようにすることが課題である。

5 おわりに

ヒアリング調査及びアンケートから、本校教育を充実させるために貴重な御意見をいただくことができました。今後、この結果を基に一層の教育改善に努めます。

ヒアリング調査及びアンケートに回答いただきました企業及び卒業生、保護者の皆様に心より御礼申し上げますとともに今後のますますの御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。誠にありがとうございました。